

令和5年度 墨田区立横川小学校 経営報告書

校長名 近藤 幸弘

学 校 目 標	人権尊重の精神を培い、社会の変化に主体的に関わり、感性豊かで、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を目指し、次の児童像を定め、教育を推進する。 ○すすんでよく学ぶ子ども ○からだをきたえる子ども ○なかよく助けあう子ども
目 指 す 学 校 像	「笑顔かがやく学校」を目指し、そのために次の3つ掲げる。 ・子どもが主体的・対話的に学び合う学校 ・子どもが目標をもち、学校生活の中で切磋琢磨しながら心身を鍛える学校 ・子どもがやさしい気持ちを持ち、互いに思いやり、集団のルールを守る規律ある学校 ・子どもの居場所を、学校・保護者・地域が協力・協働し、共につくる学校
目 指 す 子 供 像	「学びあい、助けあい、笑顔かがやく横川っ子」を合言葉に ・すすんでよく学ぶ子ども 自ら考え、人と考えを深め、高めることができる子ども ・からだをきたえる子ども 自ら心も身体もきたえることができる子ども ・なかよく助けあう子ども 自ら温かく強い心を持ち、自分・友だちなど思いやる子ども
目 指 す 教 師 像	・一人一人のよさを伸ばし、子供が主体的・対話的に学び合うことを指導できる教師 ・子どもを愛し、子どもの思いを受け止め、良いこと、悪いことをしっかりと教える教師 ・学校・保護者・地域が連携したよりよい学習の場をマネジメントできる教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○分析 ・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
各教科等指導等	確かな学力を育てるための、分かりやすい授業を実施する。 ①授業の充実を図るためのOJTによる校内研究及び研修を実施する。 ②基礎学力の向上のため、算数及び漢字コンテストを実施する。	① 4	① 3	○わかりやすい授業への研究及び研修、学力定着に向けた振り返り（反復練習、コンテスト等）が結果につながった。 ・個に応じた工夫した取組が必要である。 ・学力向上に向けた意識の改革や向上が必要である。	A	A
	特別な支援を必要とする子どもに対するの、組織的な支援等を行う。 ①特別支援教室との連携によるアセスメント等により配慮した指導を実施する。 ②校内委員会、生活指導全体会等を実施し、情報共有及び研修会の開催を行う。	① 2	① 1	○特別支援教室の指導者、学級担任及びスクールカウンセラー等の組織的な連携による支援が一定程度定着した。 ・特別支援教室の退室（目標達成）については不十分だったので再考する必要がある。 ・校内委員会等の情報共有から支援の充実までの活用が必要である。	A	A
	社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等に取り組む。 ①地域の幼・保育園及び小・中学校との連携強化を行う。 ②保護者・地域及び関係機関等の連携強化を行う。	① 2	① 3	○コロナの制限解除を受け、校外学習（生活・社会見学）及びゲストティチャーの授業を実施し成果が上がった。 ・幼保中学校等の校種間連携が不十分であり、今後はさらに活性化する必要がある。 ・学校公開等の参観授業が開催できたが、保護者・地域との連携した取組が必要である。	A	A
	教員の指導力・授業力の向上のための、組織的な取組等を行う ①研究協力校（令和6年発表）による研究を深める。 ②研修により個人及び組織の指	① 3	① 4	○研究協力校（体育科）の研究は深まり、授業の充実につながった。研修についても計画どおり実施できた。 ・研究発表（12/20）に向けてのさらなる充実が必要である。	A	A

様式 4

	導力や体制強化を図る。			・指導力を磨くことについてもさらなる取組が必要である。		
	個に応じた指導の充実 ①放課後学習教室等の個別の学習形態による取組を行う。 ②ICT機器の活用及び家庭学習の充実を図る。	① 4 ② 3	① 3 ② 4	○コロナの制限解除により授業での展開、校外学習等の工夫を計画・実施できるようになった。 ・個に応じた放課後学習の充実が必要である。 ・タブレット端末を活用した授業及び家庭学習の工夫が必要である。	B	A
	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	○特別支援教育を行う教員が拠点校(外手小)から来ているが、本校(横川小)の教員が指導を行うことはできないのか。子ども達のことをわかっている教員の方が成果が出ると考える。				

項目	取組目標	自己評価		○分析・改善方策	学校関係者評価	
		達成状況			自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
生活指導等	いじめ、不登校等の予防や解決に向けた組織的な取組等を行う。 ①いじめ・不登校の未然防止及び早期発見・対応を行う。 ②道徳地区公開講座等の家庭・地域等との連携を図る。	① 4 ② 2	① 4 ② 4	○いじめの発生への未然防止の指導及び発生時の早期対応に心掛け、現在のところ個別指導及び全体指導後の見守り等を実施している。 ・1人で抱えている児童への気付き、配慮を継続的に実施していく必要がある。 ・講演会等の参加人数を増やしていく努力が必要である。	A	A
	基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育等に取り組む。 ①横川スタンダード及び横川っ子のやくそくを遵守し、学校生活習慣を確立する。 ②家庭と協力し教育相談及びSIC等を活用し、人間関係づくりの充実に努める。	① 4 ② 4	① 3 ② 3	○学校生活習慣の確立に伴う計画は全て実施できた。週ごとの目標を定め、学級ごとに取り組めた。 ・あいさつ、時間の切り替え、思いやりの気持ちはほとんどの児童が向上したが、引き続き取り組む必要がある。 ・家庭との連携は常に情報共有していく必要がある。	A	A
	危機回避能力の育成や子供の安全を確保するための取組等を行う。 ①避難訓練及びセーフティ教室を実施する。 ②地域・関係機関との連携により安全確保に努める。	① 2 ② 2	① 4 ② 3	○防災計画に基づいた避難訓練及び警察・消防署等との連携した活動が実施できた。児童の意識は確実に向上している。 ・災害想定外の訓練等による避難行動及び意識向上の必要がある。 ・日常生活における交通安全及び防犯における安全行動の必要がある。	A	A
	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	○交通安全及び防犯における安全行動の必要性をさらに促してほしい。(家庭・地域でもさらに実施していく。)				

項目	取組目標	自己評価		○分析・改善方策	学校関係者評価	
		達成状況			自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
学校の管理	コロナ感染症制限解除後の学校行事への計画及び実施等 ①運動会及び学芸会等を見直し学校行事を計画・実施する。 ②企画会及び部会で組織な体制作り及び必要に応じたプロジェクトチームを設立する。	① 4 ② 2	① 4 ② 4	○コロナ感染症制限解除後の学校行事への計画及び実施ができた。その中で現時点での工夫に努め、ある程度の成果があった。 ・学校行事におけるさらなる工夫が必要である。 ・既存の組織や委員会等で年度途中にチーム編成をするのは困難である。計画的に編成していく必要がある。	A	A

様式 4

運 営	経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等を行う。 ①教育課程に基づいて計画・実施を適正に行う。 ②週ごとの指導計画に基づいた教育活動を実践する。	① 3	① 3	○当初の経営方針に基づく計画がコロナ感染症制限解除後の変更点を考慮しながら計画・実施の取組ができた。 ・変更点について十分な検証及び今後の改善点について検討する必要がある。 ・週ごとの指導計画に基づいた実践ができたが、指導計画の精度を上げる必要がある。	A	A						
	子どもの実態に合わせた教育目標設定及び学校評価等を適切に行う。 ①教職員への自己評価を実施し、改善を行う ②学校アンケートを実施し、実態把握から改善を行う。	① 4	① 3				○学校目標、行事及び教育活動における学校評価は概ね高評価であった。特に楽しく登校(94%)、思いやりの心(96%)、学校行事の工夫(93%)、学校情報の配信(97%)であった。 ・学校評価の内容を改善していく必要がある。 ・運動及び体力の向上については工夫していく必要がある。	A	A			
	適切な教育活動が行える教育環境・設備等を整える。 ①子どもにとって清潔で安全・安心の学校環境を整える。 ②学校内の清掃及び整理・整頓に努める。	① 4	① 3							○コロナ感染症制限解除により年度途中からであったが教育活動しやすい環境整備に努めた。 ・校舎内及び校庭の設備については老化、破損状況について常に安全状態を確認する必要がある。 ・清掃等については清潔な状態を維持しているが、整理整頓は計画的な取組が必要である。	A	A
	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	○これまでは教科書・ノートだったが、タブレットを加えたことにより机上が狭くなった。机の規格を大きくすることで、使いやすくなるのではないかなと思う。 ○車椅子を使用する子どもや大人のためにもっとバリアフリー化をすすめてほしい。										

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価								
		達成状況		○分析・改善方策	自己評価について	改善策について						
		取組指標	成果指標									
家 庭 ・ 地 域 連 携	教育方針や日常の教育活動の様子などを工夫して分かりやすく伝える取組等を行う。 ①教育活動を定期的に保護者・地域等へ周知する。 ②講演会等を開催し連携して教育課題に取り組む。	① 4	① 3	○学校・学年便り、防犯通知及び緊急連絡がCOCOOによる配信で可能となり、情報共有が向上した。 ・紙及び電子配信により情報伝達をしているが、今後のニーズも考え工夫していく必要がある。 ・講演会及び講座は計画どおり実施できたが、内容及び参加者等、開催の工夫が必要である。	A	A						
	保護者や地域の理解や協力を得た教育活動を行う。 ①保護者・地域と連携しボランティアによる教育活動を推進する。 ②PTA等との共催したイベントを開催する。	① 2	① 4				○コロナ感染症制限解除に伴い、保護者及び地域連携による教育活動が推進できた。特にボランティアによる活動が開始できた。(運動会等) ・ボランティアの内容及び活動体制等の整備が必要である。 ・イベントの開催は不十分であった。	B	A			
	地域や関係機関と連携した教育的実践 ①学童クラブ・育成委員会等と連携した取組を推進する。 ②警察・消防等との連絡、情報共有するケース会議等を開催する	① 3	① 3							○警察・消防署及び学童クラブ等との連携した活動、連絡体制は十分であった。 ・イベント開催がコロナ感染症解除後であるため、不十分なところがある。 ・関係機関との連絡体制はできているが、定期的な情報共有には至っていない。定期連絡会の開催が必要がある。	A	A
	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	○学校ホームページの更新頻度をさらに上げてほしい。 ○コロナ感染症制限解除に伴い間もない時期であるがイベント開催についてはさらに増やしてほしい。(地域子ども会としても協力しながら取り組んでいきたい。) ○子ども会としてPTAと連携しながら行事等を行っていきたいと考えている。 ○PTAも学校行事の手伝いだけになってしまい、子ども達のために学校や地域と協力しながらできる企画・組織にしていきたいと考えている。										

様式 4

2 令和5年度学校評価のまとめ

- ・学校評価では、保護者及び地域の学校関係者の皆様から教育活動の成果及び感染症対策の制限解除を行って実施した運動会や学芸会等、学校行事の取組に高い評価をいただいたことは平素からの学校教育活動への期待であると考えます。
- ・いじめ、不登校等の問題行動への対応、学力向上やタブレット端末の授業活用は高い評価をいただいた反面、さらに児童の学力向上、日常のあいさつ・学習規律の徹底や安全面での教育環境の整備が必要であると考えます。
- ・学校生活を楽しみながら生活をしている児童がほとんどであるが、学力や集団生活、友だち関係に不安を感じる児童がいることも事実であるため、改善していく努力が必要であると考えます。